



大城一郎会長（八幡浜市長）コメント

大洲・八幡浜自動車道全線が開通すれば、九州から関西まで一本の線で繋がり、人の流れや物流、交通などに大きな変化が期待できる。
皆様方の思いを結集して、大洲西道路の平成29年度の新規事業化や早期の全線開通に向けて歩みを進めていきたい。



中村時広 愛媛県知事 コメント

先月末、事業中区間の整備促進と、「大洲西道路」の29年度新規事業化について、市長会・町村会も参加の下、「チーム愛媛」で石井国交大臣と丸川原子力防災担当大臣に強く要望したところ。
本道路は、「命の道」「地方創生の道」として重要な路線であり、1日も早い全線供用を目指し、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



山本公一 衆議院議員 コメント

日本国土の発展のために、八幡浜港を利用した新しい物流の形成が不可欠だと考える。
また、トラックなどの運転時間に関する法改正もあり、国においても、フェリーを利用した新しい物流形成に関心を持っており、本道路に期待をしている。
皆様方の、大いなる後押しをお願いしたい。



中野五郎 臼杵市長 コメント

臼杵港～八幡浜港間のフェリー航路とともに、四国～九州間の高速ネットワークの接続を担う大洲・八幡浜自動車道の役割に期待するところは極めて大きい。
臼杵市、ひいては九州全域において、四国の方々との交流や観光、防災の観点から大きな効果に期待を寄せるものであり、あわせて本路線の一日も早い全線開通を期待する。



国道197号 「大洲・八幡浜自動車道」全線の 早期完成を目指す

つながる道、
つながる命

建設促進決起大会〔結果〕

日時：平成28年6月18日（土）13：30～15：00
場所：ハーバープラザホテル 2階 飛天の間
主催：国道197号（大洲・八幡浜・西宇和間）地域高規格道路建設促進期成同盟会
参加者数：約300名

- 開会
- 主催者挨拶 大城 一郎（期成同盟会会長・八幡浜市長）
- 来賓挨拶 中村 時広（愛媛県知事）
山本 公一（衆議院議員）
中野 五郎（臼杵市長）
長野 恭紘（別府市長）：メッセージのみ
- 事業説明 山下 勝徳（愛媛県南予地方局 八幡浜土木事務所長）
- 意見発表 テーマ：「大洲・八幡浜自動車道全線開通への期待と展望について」
発表者：井上 喜樹（伊方町商工会 会長）
倉谷 崇史（株式会社愛商 取締役部長）
攝津 眞澄（愛媛県教育委員）
木村 謙児（八幡浜みなと みなと交流館 館長）
山崎 利夫（八幡浜地区施設事務組合 消防長）
瀬野 恵三（九四オレンジフェリー株式会社 代表取締役社長）
意見集約：清水 裕（期成同盟会副会長・大洲市長）
- 閉会挨拶 山下 和彦（期成同盟会副会長・伊方町長）
代理：森口又兵衛（伊方町副町長）

様々な分野における意見発表者(6名)の発表内容

①「命の道」の観点から (伊方町商工会 井上善樹氏)



伊方町は四国で唯一の原子力発電所立地町でもあり、災害時に、とにかく早く安全確実に避難できる経路の確保は、最優先課題である。
 「大洲・八幡浜自動車道」が広域避難経路に加われば、町民の安心感は計り知れない。
 私たち伊方町民にとって「命を守り、命を支え、命をつなぐ」まさに「命の道」となる「大洲・八幡浜自動車道」全線の早期完成のために、これからも声を上げつづけたい。

②「九州との物流」の観点から

(株)愛商 倉谷崇史氏



大洲・八幡浜自動車道が全線開通すれば、高速で走りやすい大洲・八幡浜自動車道を利用する事が多くなると考える。
 また、代替路線としての機能強化や四国8の字ネットワークとの接続は物流効率のアップの面で不可欠な道路である。
 本道路の全線完成は、販路拡大や労働時間の短縮等に大きく寄与するものと確信しているとともに、弊社のみならず、工業や農林水産業といった幅広い分野においても新たな事業展開に繋がると期待する。

③「女性・教育・文化」の観点から

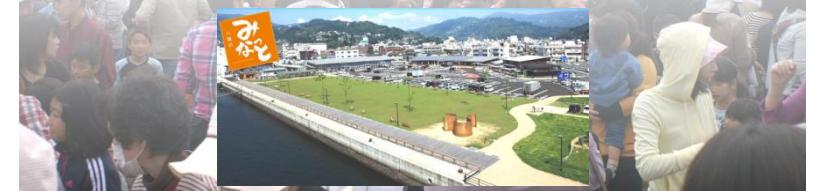
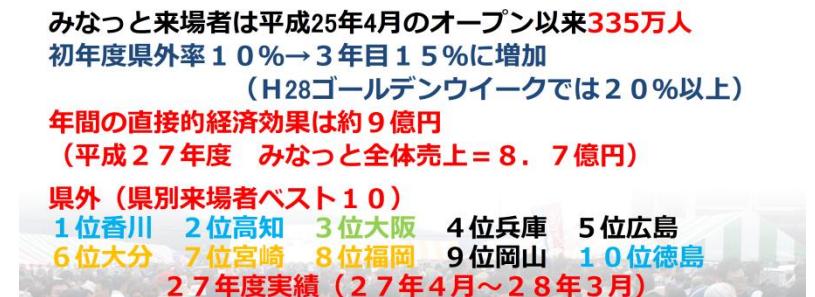
(愛媛県教育委員 攝津眞澄氏)



「医」の観点からは、休日・夜間などは、圏域外への搬送が必要で、高齢者や乳幼児を抱える住民より不安の声が上がっている。
 「食」の観点では、学校給食の地場産物の活用率の向上等に取り組んでおり、食の文化、伝統が、本道路を通じて流通し、学校給食がより豊かになるよう願う。
 「住」の観点からは、学校の統廃合が進むと通学距離も長くなり、自転車、自動車事故が予想されるが、これらの解消が導入されているなか、八幡浜市内の高校をこれらに位置付け、県内外からの生徒確保、生徒の定住促進を図り、就労人口を増やす点においても、本道路は文化、教育の道として有効であると思う。

④「観光・地域づくり」の観点から

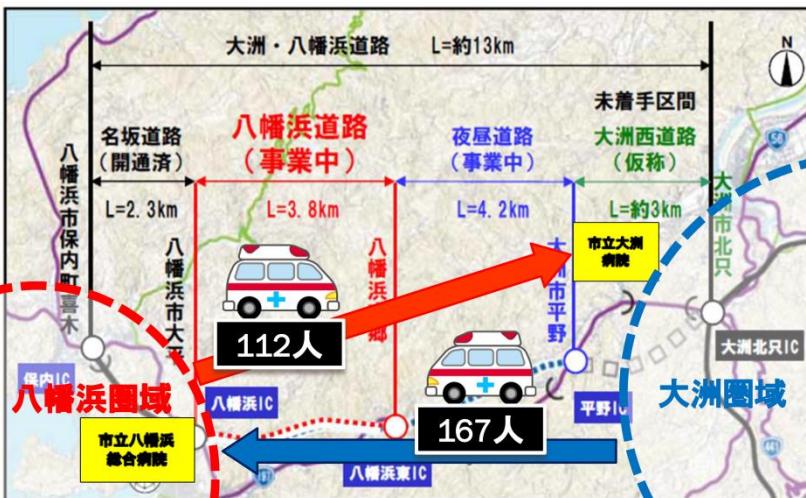
(八幡浜みなと みなと交流館 木村謙児氏)



東九州自動車道の全面開通により、九州(宮崎、大分他)の来訪者が増加してきていることから、今後、八幡浜と大洲を結ぶ高規格道路の延伸と全線開通が実現すれば、当「八幡浜みなと」のみならず、港の賑わいの継続にもつながり、八幡浜市全体のステップアップのチャンスともなり得る。

⑤「広域医療体制」の観点から

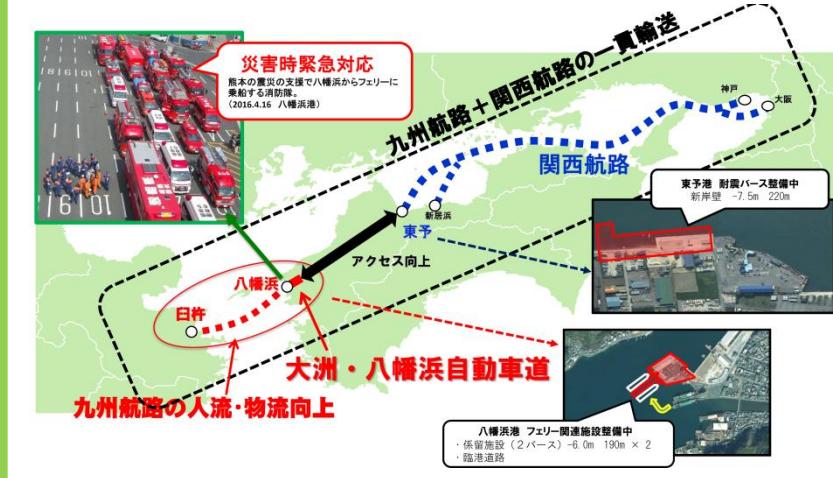
(八幡浜地区施設事業組合 山崎利夫氏)



圏域外搬送の割合が高く、広域医療体制を実施している当地域においては、全線開通すれば、現在のルートと比較して**10分以上の所要時間の短縮が可能**。1分1秒が傷病者の生命に直結するので、まさに「命をつなぐ道路」になる。
 また、名坂道路の整備により周辺道路における**事故件数の減少や軽症化傾向が確認**できるほか、大規模災害が発生した場合の緊急消防援助隊(八幡浜港が集合港)の活動にも大きく寄与するものと期待する。

⑥「道路・フェリーが一体となった広域輸送ルート」の観点から

(九四オレンジフェリー(株) 瀬野恵三氏)



九州航路の利用者は増加傾向にある。道路整備が進めば、八幡浜港は、四国地区における中・南九州向けの**ゲートウェイ**となり、アクセス道路の整備と連携した港湾機能が強化され、また結節点として**賑わいや雇用の増加も期待**される。
 九州航路と関西航路の結節強化でもあり、道路とフェリーが一体となった**広域複合一貫輸送経路が機能し、新たな国土軸の形成にも資**することから、大洲西道路の早期事業化や全線開通が望まれる。